

## 歴史的建造物を活かしたまちづくりの検討

- 群馬県富岡市を事例として -

前橋工科大学 学生会員 大下 敦毅  
前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

### 1. はじめに

群馬県富岡市は、かつて養蚕・製糸業が栄え、絹市場として大きく発展した歴史があった。しかし、生活様式の変化や糸の価格の低迷などと共に、産業は停滞し、現在は街全体が衰退してきている。一方、街の中心部には、当時の繁栄を支えた富岡製糸場をはじめ、煉瓦造りの倉庫、土蔵造りの家屋や長屋などの歴史的建造物が今でも点在している。特に富岡製糸場は、2007年1月に世界遺産候補になり、月約2万人の観光客が訪れるようになった。しかし、現状として、中心商店街の空地が目立つなど、観光客を受け入れる体制が整えられておらず、街全体の活性化につながっているとは言い難い。

そこで本研究では、街全体の活性化につなげるための対策として、中心商店街の現状と将来の動向を把握し、富岡製糸場と周辺の歴史的建造物を活かしたまちづくりの可能性を検討することを目的とする。富岡市中心部の位置関係を図-1に示す。

### 2. 研究方法

本研究では、以下の2つの観点より研究を進める。

#### (1) 土地利用変化と土地利用予測

富岡市中心商店街の現状を把握するため、土地利用変化を分析する。また、将来の動向を把握するため土地利用予測を推測する。手順は、土地利用形態を9つ(小売店、飲食店、宿泊業など)に分類し、次に住宅地図(1972年、1987年、1991年、1995年、1999年、2004年)を用いて、基準年と基準年から一定期間後の土地利用を読み取り推移行列を作成し、これを現在年まで繰り返す。また、作成した推移行列を用いて、将来の土地利用を2055年まで予測する。

#### (2) ネットワーク形成

本研究では、観光客が街を回遊することが、街全体の活性化につながるという仮定の下、富岡市中心部に点在している歴史的建造物に着目し、ネットワーク形成という観点が可能であるかを検討する。なお、ここでいうネットワーク形成とは、ある区域内に歴史的資源が複数点在し、それ

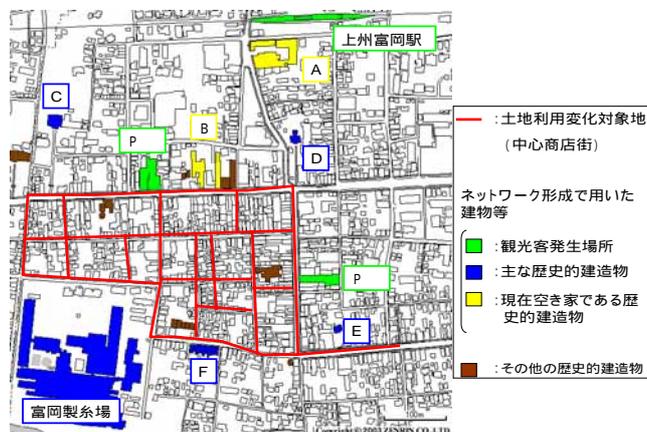


図-1 富岡市中心部

らの歴史的資源を共に保全活用することである。しかし、本研究ではその概念に加え、歴史的資源が観光客の回遊できる距離に存在することもネットワーク形成に含むことにする。検討の手順を以下に示す。

富岡市中心部への観光客の来訪手段は、電車と自動車が一般的だと考慮できるので、観光客発生場所を上州富岡駅と2つの観光客用駐車場(P、P)とし、これらと主な歴史的建造物との最短距離を求める。次に、歩行することに抵抗のある高齢者を考慮した条件として「一般的に、高齢者の継続歩行の目安は400m程度」と仮定し、得られた歴史的建造物間の最短距離がこの条件を満たすかを検討する。この条件を満たした場合、富岡市中心部においてネットワーク形成は可能であると判断する。

### 3. 研究結果

#### (1) 土地利用変化と土地利用予測

図-2は土地利用変化の推移であり、これより1972年に比べて2004年には小売店が大幅に減少していることが分かる。また、空き家・空き店舗と駐車場・空地の増加率が高いことが読み取れる。以上より、近年の中心商店街は、以前に比べ空洞化が進行していると考えられる。

次に、最近の土地利用変化パターンを見てみると、1999年から2004年の推移行列(表-1参照)より、小売店、民家が駐車場・空地に、又は空き家・空き店舗が駐車場・空地に変化していることが分かる。しかし、駐車場・空地から他の形態に変化することはほとんどないと把握できる。つまり、駐車場・空地になる前に、空洞化の対策を打つこ

キーワード：土地利用、富岡製糸場、歴史的建造物

連絡先：〒371 0816 群馬県前橋市上佐鳥町460 1

前橋工科大学工学部建設工学科 TEL/FAX：027-265-7362

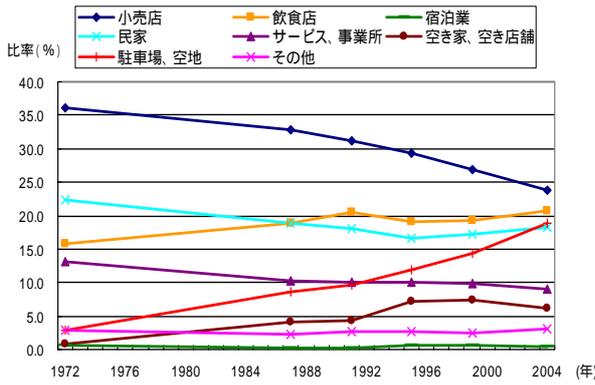


図 - 2 土地利用変化

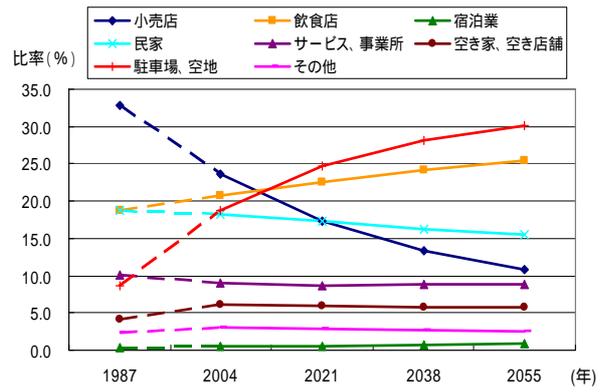


図 - 3 土地利用予測

表 - 1 1999年から2004年までの推移行列

	1	5	0	6	1	7	8	3	0	変化なし	合計
小売店	1	5	0	6	1	7	8	3	0	146	177
飲食店	0	24	0	3	2	3	2	1	0	92	127
宿泊業	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4
民家	4	5	0	27	0	6	9	0	0	63	114
サービス、事業所	2	0	0	4	1	3	2	0	0	53	65
空き家、空き店舗	2	8	0	13	0	0	12	0	0	14	49
駐車場、空地	0	1	0	1	1	4	4	1	0	83	95
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	0	14	16
不詳	1	0	0	3	0	2	4	1	0	0	11
合計	10	44	0	57	6	26	41	6	0	468	658

注) 表の見方の一例として、(1, 2)成分「5」は、1999年に小売店だった土地が2004年に飲食店に5件変化してことを表す。また、対角成分は同じ形態に変化したものであり、変化なしはこの期間中全く変化しなかったものである。

とが重要だと推測できる。

図 - 3は土地利用予測の結果であり、これより増加傾向にあるのは駐車場・空地と飲食店である。特に駐車場・空地は2055年には30.2%となり、将来は一番多い土地利用形態になると考えられる。反対に、大きな減少傾向にあるのは小売店で、2055年には現在の半分しか小売店が残らないことになる。つまり、中心商店街の空洞化は今後も進行していくと考えられる。

(2) ネットワーク形成

表 - 2は最短距離の結果である。これより一番長い距離は、上州富岡駅と富岡製糸場の0.73kmであり、その他の歴史的建造物も一定の距離圏内にあることが分かる(建物等の位置関係は図 - 1参照)。

次に表 - 2より、前述した「一般的に、高齢者の継続歩行の目安は400m程度」という条件を満たさない区間があることが分かる。しかし、条件を満たさない区間の道中には、必ず表 - 2中の他の歴史的建造物が存在する。すなわち、ある区間は直接歩けないとしても、この区間の道中にある他の歴史的建造物を見学し、そこで休憩することで、間接的に目的地まで行くことができると考えられる。よって、歴史的建造物は観光客が回遊できる距離に存在すると判断できる。

以上より、富岡市中心部において、ネットワーク形成の観点から、街全体の活性化につなげるための、歴史的建造物を活かしたまちづくりは可能であると考えられる。つまり、富岡製糸場と周辺の歴史的建造物を共に保存していく

表 - 2 最短距離 (単位: km)

	富岡製糸場	A	B	C	D	E	F
上州富岡駅	0.73	0.14	0.40	0.64	0.32	0.66	0.68
P	0.23	0.40	0.07	0.17	0.21	0.53	0.31
P	0.32	0.40	0.25	0.51	0.15	0.19	0.24
富岡製糸場		0.59	0.30	0.37	0.44	0.30	0.08
A	0.59		0.26	0.50	0.25	0.59	0.54
B	0.30	0.26		0.24	0.10	0.44	0.30
C	0.37	0.50	0.24		0.34	0.67	0.45
D	0.44	0.25	0.10	0.34		0.34	0.39
E	0.30	0.59	0.44	0.67	0.34		0.22
F	0.08	0.54	0.30	0.45	0.39	0.22	

注) 表中のAからFの歴史的建造物等の位置関係については図 - 1を参照。

ことで、富岡市中心部の歴史街としての価値を上げ、活性化につながるのではないかと考えられる。

4. まとめ

土地利用変化を時系列的に捉えることにより、富岡市中心商店街の空洞化は、以前に比べ進行していることが分かった。また、推移行列より、近年の土地利用変化パターンとして、小売店、民家から駐車場・空地に、又は空き家・空き店舗から駐車場・空地に変化しており、駐車場・空地から他の形態に変化することはほとんどないことが分かった。さらに、土地利用予測より、中心商店街の空洞化は今後も進行していくことも把握できた。

次に、活性化のための対策として、ネットワーク形成の観点から、富岡市中心部において、富岡製糸場と周辺の歴史的建造物を活かしたまちづくりは可能であることが分かった。しかし現状として、歴史的建造物を上手く活かしたまちづくりが展開されているとは言い難い。そこで、今後の課題として以下の2点をあげる。

歴史的建造物の中には、現在空き家の建物があるため(図 - 1参照)これらの建物を観光資源(小売店、資料館、観光情報発信の場等)に活用することで、取り壊される可能性も低くなり、空洞化対策になると考えられる。

富岡市中心部には、ネットワーク形成で使用した建物以外にも多くの歴史的建造物が点在している。そこで、これらの建物も含めて、活性化に向けたまちづくりを検討していくことが重要だと考えられる。